

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報



社会への貢献

代表取締役副社長
菅原 英宗



NTTコミュニケーションズがWith/Afterコロナを見据えて策定した事業ビジョン「Re-connect X」に示したのは、生活者・ビジネス・社会などあらゆるものを安心・安全かつ柔軟につなぎ、そこから得られるデータの活用を通じて多くの社会課題の解決に活かすサステナブルな未来です。その実現に向けて、私たちは次世代型のデータ活用プラットフォーム「Smart Data Platform」を基軸とした創造的なソリューションの提供を推進するとともに、リモートを前提とした分散型社会への対応を進め、ICT基盤のレジリエンスを高めてきました。私たちの一連の取り組みが試される大舞台となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、世界最高水準の通信サービスの提供を通じて、重責を果たすことができたものと考えています。

2021年5月のサステナビリティ基本方針の改定に伴い、新たな重点領域「社会」に基づく重点活動項目を見直しました。ICTを通じて社会課題の解決を目指す大きな方向性はそのままに、“Smart World”の実現に向けて社会全体のDX推進に力点を置き、IOWN構想の実現により限界を打ち破るイノベーションの推進を標榜するなど、より意欲的な姿勢を示したものとなっています。今後は新ドコモグループの一員として、社内外でオープンイノベーションを展開しながら自らの可能性を広げ、サステナブルな未来に貢献していきます。

※ NTTコミュニケーションズは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナー（通信サービス）です。

世界中の、より多くの人々がICTで「つながる」日常生活を

日々、新しい情報通信技術が生まれ、経済活動のパラダイムが変わり続けています。私たちNTTコミュニケーションズグループは、社会・産業DXのリーディングカンパニーとして、高信頼で高品質な通信インフラを実現することはもちろん、社会やお客さまに最先端の技術をご提供し社会課題の解決に資することを重視し、日々の業務に臨んでいます。

また、ICTを活かした社会貢献活動の在り方も常に模索しています。これらを取り組みの柱とした多面的な活動を展開することで、社会のさまざまなコミュニティと共栄しつつ、より良い未来に寄与していきます。

重点活動項目

- 027 ネットワーク社会を支えるイノベーション
- 030 重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
- 032 顧客のネットワークセキュリティの強靱化
- 034 顧客満足の継続的改善
- 036 サプライヤーとの協働
- 038 地域貢献・コミュニティ開発

CONTENTS
トップコミットメント
私たちが目指す社会
私たちの事業を通じた社会課題の解決
NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ
社会への貢献
2020年度の活動実績 ネットワーク社会を支えるイノベーション 重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保 顧客のネットワークセキュリティの強靱化 顧客満足の継続的改善 サプライヤーとの協働 地域貢献・コミュニティ開発
地球環境への貢献
人材の尊重
経営統治の継続的強化
企業情報

2020年度の活動実績

CSR指標に即した活動の成果

私たちは、社会の持続的発展のため、安定的で信頼性の高いサービスを提供するとともに、災害や情報セキュリティへの対策を強化した安心なコミュニケーション環境の提供に取り組んできました。その成果として、6つの重点活動項目のうち「ネットワーク社会を支えるイノベーション」「重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保」「顧客のネットワークセキュリティの強靱化」「サプライヤーとの協働」「地域貢献・コミュニティ開発」において目標を達成できました。

コロナ禍で在宅勤務が増え、増大するインターネット通信を快適にするためのIPoE化を進めるなど、OCNサービスの利便性向上のために機能を拡充し、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の成功に向けては災害対応力や情報伝達力の向上に努めました。また、シンボルチームであるラグビー部「シャイニングアークス」では、小中学校で、ラグビー教室やオリンピック・パラリンピック教育推進授業や海洋資源を守り未来につなげていく「LEAD TO THE OCEAN」への参画など、さまざまな社会的課題解決への取り組みを実施しました。

◆ 2020年度の活動実績

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2020年度			評価	活動範囲 (バウンダリー)		
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果		組織内	組織外	集計範囲

重点活動項目 | ネットワーク社会を支えるイノベーション

関連するSDGs ▶ 9 11

ビジネスの 変革に寄与する 新たな価値の 提供	IoTおよびクラウド 技術を活用した、法人顧客の事業ニーズ に即したグローバル シームレスなサービス群の展開	IoT基盤としてSmart Data Platformの各サービスと合わせてお客さまに価値のあるIoTソリューションを提供し、Smart Worldの実現に貢献する。そのための新たなIoTユースケースの創出として、お客さま業務の問題に対するバリュー提案の実施や、Things Partner®プログラムにおけるケイパビリティの拡大を継続的に実施	● IoT-PFであるThings Cloud®とSmart Data Platformの1つであるWasabiを組み合わせて、お客さまのDXを推進するための複合提案を実施 ● Things Partner®プログラムに関してはコロナ禍においてオンラインでイベントの実施や分野別IoTユースケースディスカッションを実施し、プログラムの拡大を推進	● Things Partner®プログラムの参加企業数は41社まで拡大（2021年3月時点） ● 2020年度で2社がReadyからConnectedとなり、合計でReady：30社、Connected：11社 ● 2度のオンラインイベントを通してパートナーへの情報発信を実施し、新たな価値の提供の創出に取り組んだ ● Things Cloud®は2020 Frost & Sullivan アジア太平洋地域ベストプラクティスアワードで「2020 Japan IoT Service Provider of the Year」を受賞 ● Vehicle Manager®は第14回 ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2020で「IoT部門 審査委員会賞」を受賞するなど、取り組みを対外的にも評価	★★★	●	●	国内グループ
----------------------------------	---	--	---	--	-----	---	---	--------

※ NTTコミュニケーションズは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナー（通信サービス）です。

自己評価による達成レベル ★★★：目標を達成できた ★★：目標をほぼ達成できた ★：目標はあまり達成できなかった

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

地球環境への貢献

人材の尊重

経営統治の継続的強化

企業情報

社会への貢献 | 2020年度の活動実績

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2020年度				活動範囲 (バウンダリー)		
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価	組織内	組織外	集計範囲
安心・安全な日常生活の実現、デジタルデバイドの解消	デジタルデバイドの解消、アクセシビリティの改善に貢献する、個人向けサービスの開発、提供体制の構築	- OCNサービスの利便性向上に向けた新規サービスのリリースや継続的な機能拡充の実施 - 新型コロナウイルス感染症の流行に伴うネットワーク利用状況の変化に対応する支援施策の継続実施	【U25向け】OCNモバイルONEデータ容量10GB無償提供：2020年4月～ - 新型コロナウイルス感染拡大における料金お支払い期限延長などのお客さま支援（NTTグループ会社連携施策）：2020年4月～ - OCN光回線サービスにおけるIPv6接続（v4overv6）標準機能化：2020年6月～ - OCN利用者向け「Amazon Music Unlimited」3カ月無料体験&毎月100円割引提供（パケットカウントフリー対象）：2020年7月～ - OCNモバイルONE音声対応SIM向け OCNでんわ完全かけ放題オプション提供および最大12カ月間月額料金1,000円キャンペーン：2021年2月～ - モバイル用トラフィック制御システムのバージョンアップによる混雑時のパケットロス削減・QoE改善：2021年3月～ - カスタマー向けセンタDX推進（Chatbot、Web、IVR、リモートワーク）によるお客さまサポートの高度化・効率化およびセンタ機能停止時でもお客さま対応継続可能なBCP推進：通年	7件	★★★	●	●	国内グループ

重点活動項目 | 重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保

関連するSDGs ▶ 9 11

災害に強いネットワークづくり	災害時の通信断を防ぐため、ICT基盤設備（建物、鉄塔、電力、線路／土木）の継続的強靱化	水防・耐震などの災害対策【水防】5ビル着手【耐震補強・撤去】1ビル着手	水防・耐震などの災害対策【水防】5ビル着手【耐震補強・撤去】2ビル着手	水防・耐震などの災害対策【水防対策着手】5ビル【耐震補強・撤去着手】2ビル	★★★	●	国内グループ
		受電設備・エンジンの信頼性向上⇒新規意思決定【受電設備更改】6ビル【エンジン更改】9基	受電設備・エンジンの信頼性向上⇒受電設備／エンジン更改工事の意思決定会議付議および工事着工の実施	受電設備・エンジンの信頼性向上【受電設備】6ビル意思決定会議了承【エンジン】5基を意思決定 了承	★		
		通信経路経路断に備えた救済用部材の配備	通信経路2020年度の「令和2年7月豪雨」でも発生したNTT Comファイバーケーブルの長期間断線想定して、WDM迂回構築ができる予備部材の購入を2021年3月意思決定済。2021年8月納品済み		★★★		
		伝送設備弾力的な物品調達、予備機配備拠点のBCP化	伝送設備⇒パス迂回予備物品配備に加えて、需要対応用のパス物品在庫（3カ月）についても弾力的な活用を行うよう、整理済み（2020年6月）⇒WDMのパス迂回物品と局内光ケーブルについて、予備機配備拠点（関東と関西）のBCP化済（2020年6月）		★★★		
		社内監視制御網セキュリティ強化（異常通信検知導入）	社内監視制御網異常通信検知システム（NDR）の導入完了（～2020年3月）、運用開始（2021年4月1日～）		★★★		
		保全ブランドデザインの策定現行ルートの脆弱度評価を行い、全国DSMケーブルの更改方針へつなげる取り組み	保全ブランドデザインの策定全国的にビル間での脆弱性評価を実施。その結果さらに詳細な情報が必要と判断し、被災のあった九州にて局所的に詳細なデータ入力を実施。全国に展開するには人力では困難だと判断し、脆弱度評価を行うシステム構築の検討を実施	保全ブランドデザインの策定評価対象として18万レコード、評価項目として56のパラメータを選定	★		

自己評価による達成レベル ★★★：目標を達成できた ★★：目標をほぼ達成できた ★：目標はあまり達成できなかった

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ



社会への貢献

2020年度の活動実績

ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発



地球環境への貢献



人材の尊重



経営統治の継続的強化

企業情報

社会への貢献 | 2020年度の活動実績

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2020年度			活動範囲 (バウンダリー)			
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価	組織内	組織外	集計範囲
大規模災害への対策	●南海トラフおよび首都圏直下地震を想定した対応計画の継続的強化と、演習題材をブラインド形式(演習者への非公開形式)を用いた災害対策演習の充実 ●政府、自治体とも連携した被災情報の収集および報告プロセスの迅速化と運用定着化 ●グループ間の連携強化	●南海トラフ地震を想定した基本行動プロセスの再確認および新災害対策本部運用プロセスの確認 ●大規模国家イベント開催中の自然災害発生を想定した対応プロセスの確認 ●システムの高度化などによる情報収集力の強化と災害対応プロセスのシンプル化(新型コロナウイルス感染などの感染症対応含む)	●コロナ禍において在宅勤務・自宅待機が基本となっている状況で、南海トラフ地震が発生した際の「復旧に向けた基本行動プロセスの再確認」と「リモート環境下における災害対策本部開催の新たな運用プロセス確認」を目的とした全社防災演習を実施(2020年10月) ●コロナ禍での東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催を想定し、リモート環境下での情報連絡体制を構築したうえで、大規模自然災害発生時の「オリパラ大会運用チーム(社内)」と「災害対策本部(社内)」間の連携フローの確立と習熟を目的とした全社故障演習を実施(2021年3月) ●政府の「令和元年台風第15号・第19号をはじめとした一連の災害に係る検証チーム」と連携し、さまざまな立場・観点から改善すべき論点を抽出し、その論点ごとに対応策をとりまとめ実行(2020年3月) http://www.bousai.go.jp/kaigirep/r1typhoon/index.html	●感染症蔓延時における災害対策本部設置場所と参集方法の考え方を新たに整理し、リモート環境下での復旧対応プロセスを整備。なお、2020年度中に発生した大規模災害時の対応ならびに全社防災演習を通じて、その実効性を確認 ●災害発生事例の振り返りならびに演習・訓練を通じた東京2020オリンピック・パラリンピック大会運用チーム(社内)と災害対策本部間の連携強化により、災害対応力および情報伝達速度の向上を確認	★★★	●		国内グループ

重点活動項目 | 顧客のネットワークセキュリティの強靱化

関連するSDGs▶ 9 11

24時間365日のネットワーク監視	●お客さま向けサービス(ネットワーク、インターネット、クラウド、メール、ホスティング、音声系サービスなど)の常時監視 ●グローバルシームレスなネットワーク監視体制の構築 ●長時間故障件数の継続的削減	●2019年度の目標はすべてのサービスで目標を達成しているが、定着化を図るため、1時間超えの長時間故障について、引き続き以下のとおり設定 ●データネットワーク(DNW):1,303回線/月 ●クラウド(CL):12件/年 ●アプリケーション&コンテンツ(A&C):46件/年 ●ボイス:16件/年 ●新型コロナウイルス感染症などの感染拡大に備えたリモートでのネットワーク監視運用体制・システムなどの検討によるサービス・オペレーション品質の維持・向上	●長時間故障については月次で管理し、長時間化した原因の分析と再発故障を防ぐ対策を実施 ●新型コロナウイルス感染症などの感染拡大に備えたリモートでのネットワーク監視運用体制・システムなどの構築は予定通り実施できており、最低限の人員によるサービス・オペレーション品質の維持・向上が達成	各サービスにおける1時間超の長時間故障件数は、以下のとおり ・DNW: 814回線/月 ・CL: 12件/年 ・A&C: 8件/年 ・ボイス: 20件/年	★★★	●	●	国内グループ
-------------------	---	--	--	---	-----	---	---	--------

自己評価による達成レベル ★★★：目標を達成できた ★★：目標をほぼ達成できた ★：目標はあまり達成できなかった

NTT Communications Corporation Sustainability Report 2021

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

地球環境への貢献

人材の尊重

経営統治の継続的強化

企業情報

社会への貢献 | 2020年度の活動実績

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2020年度				活動範囲 (バウンダリー)		
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果	評価	組織内	組織外	集計範囲
脆弱性対応機能の強化	国内グループ会社にとどまらず、海外グループ会社を含む、脆弱性対応機能の強化のための各種施策展開	脆弱性診断をシステム監査と融合し、全社展開を図る	- NTT Comグループ各社への情報セキュリティ監査／システム監査の運営実施 - 法務監査部 (内部監査室) と連携したアジャイル監査の運営実施	NTT Com組織内(デジタル改革推進部 アプリケーションサービス部 西日本営業本部など)NTT Comグループ各社(コムオンライン／コムソル／PhoneAppli／NTTスマトレ)への情報セキュリティ監査／システム監査の運営実施とフォローアップの実施	★★★	●		国内グループ
迅速・確実なセキュリティ脅威対応	企業や国家の情報システムの安全・安心に貢献するサービスの継続的な充実・強化	ICT環境のゼロトラスト化やワークスタイル変革への対応強化を目指し、クラウドGWやエンドポイント、IoT／OTなどのセキュリティ対策を拡充する	- クラウドGWについては、クラウド利用におけるシャドーIT／内部不正／情報流出を軽減するためのサービス「クラウド診断ソリューション(CASB)」の提供を開始した。また、メールやプロキシのログの高度分析により脅威を低減する「クラウドGWセキュリティ(メール)」「クラウドGWセキュリティ(プロキシ)」の提供を開始した - エンドポイントについては、Windowsに加えMac・Linuxなどにも対応した「CrowdStrike」の提供を開始した - IoT／OTについては、ミッションクリティカルな工場系ネットワークをSOCで24時間監視する「OTセキュリティ(SilentDefense)」と「OTセキュリティ(Guradian)」の提供を開始した	新サービスの提供開始：6件 ・クラウドGW分野で3つのサービス ・エンドポイント分野で1つのサービス ・IoT／OT分野で、2つのサービス	★★★	●	●	国内グループ

重点活動項目 | 顧客満足の継続的改善 関連するSDGs ▶ 8

継続的なCS調査	お客さま満足度スコアの継続的改善	- 設問設計の見直しや調査結果分析の高度化により顧客満足度に影響の高い項目を明確化 2020年度においては特にコロナ禍のお客さまニーズや課題を把握し営業活動やサービス改善に取り組むことで顧客満足度の向上を図る	- 経年比較を問う設問を設け、2020年度に実行した打ち手の顧客満足度向上に対する効果測定を実施(PDCA) - 調査対象者にLoB層や中堅中小顧客層を新たに追加し幅広い顧客のニーズを把握 - 新たにCXO層へのインタビュー調査を実施 - 複数の相関分析を取り入れ、顧客満足度に影響の高い改善項目を明確化 - 各関係組織にて調査結果を踏まえたアクションプランを策定し実行中 - ニューノーマル時代における顧客のDX推進やIT環境の見直しへの取り組み傾向に関する設問を設定し、タイムリーな顧客ニーズを把握	- LoB層回答者：2020年度比177件増 - 中堅中小層回答者(新設)：122件 - CXOインタビュー調査(新設)：34件 - 顧客ロイヤリティに影響度の高い改善項目の抽出：約100件 - ニューノーマル時代におけるDX推進意向などを取りまとめた簡易ホワイトペーパーの作成	★★★	●	●	国内グループ
----------	------------------	--	---	---	-----	---	---	--------

自己評価による達成レベル ★★★：目標を達成できた ★★：目標をほぼ達成できた ★：目標はあまり達成できなかった

CONTENTS
トップコミットメント
私たちが目指す社会
私たちの事業を通じた社会課題の解決
NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ
社会への貢献
2020年度の活動実績 ネットワーク社会を支えるイノベーション 重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保 顧客のネットワークセキュリティの強靱化 顧客満足の継続的改善 サプライヤーとの協働 地域貢献・コミュニティ開発
地球環境への貢献
人材の尊重
経営統治の継続的強化
企業情報

取り組み施策	中期目標 (5年後になりたい姿)	2020年度			評価	活動範囲 (バウンダリー)		
		目標	具体的な取り組み状況	定量的な結果		組織内	組織外	集計範囲
重点活動項目 サプライヤーとの協働		関連するSDGs▶ 8						
CSR・グリーン調達の浸透	● サプライヤー各社による製品アセスメントの実施などを通じた環境への影響を考慮した製品の調達推進 ● 紛争鉱物問題に代表されるサプライチェーンでの反社会的行為への加担の防止	CSR調達推進に関する継続的なサプライヤー調査(年1回)の実施	● CSR調達推進に関する継続的なサプライヤー調査(年1回)の実施 ● 環境配慮部品・製品の調達に関する基本的な考え方やサプライヤーへの要求事項の共有 ● 人権デューデリジェンスについて、バリューチェーン全体に「NTTサプライチェーンCSR推進ガイドライン」の遵守を求め、特に重要なサプライヤーとは直接対話を実施	● 19社 ● 個別説明会の実施 ・ビニール包装削減に関するもの：2社 ・紙削減(電子契約化)に関するもの：50社	★★★	●	●	Co m 単体
重点活動項目 地域貢献・コミュニティ開発		関連するSDGs▶ 4						
地域への貢献	持続性・効率性・適正評価・世界観・スキルなど社会貢献原則に基づき、さまざまな分野における社会貢献活動を実践	● 地域清掃活動の継続の実施 ● 地域の障がい者支援団体と協力した販売会の継続の実施(パン・お菓子など) ※ ただし、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施有無については再検討を行う	● 例年実施していた本社ビル周辺の清掃活動については、新型コロナウイルス拡大防止の観点から中止 ● 配送による販売会を実施。その他拠点やグループ会社においても各自で販売会を実施	● 配送による販売会(2月、3月の計2回開催。総売上金額124,500円。本社ビル内での販売会では参加しにできなかった他拠点社員からの購入が可能となった。関東以外からの注文は3件)	★	●	●	国内グループ
コミュニティ・次世代の育成	事業特性を活かしたコミュニティ支援および次世代育成に貢献する戦略的な社会貢献体制の構築	● AIやIoTの最新技術に触れあう職場体験などの社会を知る機会の提供などを通じ、子どもの健全な育成に向けた取り組みを継続的に推進 ● スポーツを通じたSDGsの活動にさまざまな観点から本格的に取り組む社会問題を解決するとともに、地域貢献を通して地域に根差したチーム作りを継続する ※ ただし、新型コロナウイルス感染拡大のため、実施有無については再検討を行う	● 「NPO法人海さくら」と「日本財団」共催により2015年から取り組まれている「LTO(LEADS TO THE OCEAN 海に続くプロジェクト)」に参画 https://www.ntt.com/rugby/news/2020/200807.html ● JICAと「トンガについて学ぼう」オンラインイベントを実施 https://www.ntt.com/rugby/news/2020/200522.html ● 2020年12月に浦安市内の保育園児を対象としたトライ数×オモチャをプレゼントする「1TRY×1TOY」を実施 https://www.ntt.com/rugby/news/2020/201201_03.html ● 長期療養児自立支援事業への活動協力 https://www.ntt.com/rugby/news/2020/210129.html ● 厚生労働省が提唱する「#広がれありがとうの輪」プロジェクトに賛同し取り組みを開始 https://www.ntt.com/rugby/news/2020/210331.html ● オリンピック・パラリンピック教育授業の実施(2018年から継続) ● ファミリーデー、海岸清掃(毎年実施)	● 第1回：10月24日から11月21日まで4回実施 ● JICAオンラインイベント https://www.ntt.com/rugby/news/2020/200611.html ● 12月5日から始まる練習試合3試合を対象(うち1試合が対戦相手事情により中止)とし、3トライで3つプレゼントを実施 ● 浦安市に活動拠点を置くサッカーチーム「プリオベッカ浦安」とともに、特定非営利活動法人「Being ALIVE Japan」の活動理念に賛同し、長期療養児への活動支援ならびに広報への協力を開始。1月31日にオンラインで1回目を開催 ● 「#広がれありがとうの輪」をつけSNSの投稿を実施 ● 「杉並区立天沼小学校(11月5日)、板橋区立第七小学校(11月12日)、大島町立つばき小学校(12月21日)、大島町立第一中学校(12月22日)」 ● ファミリーデー、海岸清掃は新型コロナウイルス拡大防止の観点から中止	★★★	●	●	国内グループ

自己評価による達成レベル ★★★：目標を達成できた ★★：目標をほぼ達成できた ★：目標はあまり達成できなかった

自己評価による達成レベル ★★★：目標を達成できた ★★：目標をほぼ達成できた ★：目標はあまり達成できなかった

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動
項目

ネットワーク社会を支えるイノベーション

私たちのアプローチ

情報通信技術やデジタル技術の進歩が加速する中、私たちが革新的なICT製品およびサービスを通じて社会へと貢献しうる機会も、大きな広がりを見せています。

日常生活からビジネスまで、クラウドの活用が一般化しており、各種クラウドサービスの開発およびデータセンターサービスの拠点網の充実、ここ数年、私たちの事業を通じた貢献の大きなテーマとなっています。

加えて、近年はAI(人工知能)、IoT(モノのインターネット化)が急速に注目されていることを受け、社会の幅広い人に安心で快適な日常生活を提供するための新たなICTサービスの開発にも、私たちは積極的に挑戦しています。

これらのような私たちの姿勢と活動は、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」に大きな意義を持つものであると、私たちは考えています。今後、これらも踏まえたCSR目標の検討を実施し、引き続き革新的な製品・サービスの実現を通じた貢献を模索します。

基本的な考え方

CSR重点活動項目「ネットワーク社会を支えるイノベーション」に即した活動の検討、成果検証、さらなる活動の向上に向けた取り組みはCSR委員会とそれぞれの活動を実施する担当各部門と連携しつつ実施しています。同重点活動項目は、私たちの成長戦略と密接に関わりを持っています。

私たちは「人と世界の可能性をひらく コミュニケーションを創造する。」という企業理念のもと、先進的な技術やサービスを提供することで社会に新たな価値を創造すると同時に「事業の特徴・強みを活かしたCSRの遂行」によって世界中を「つなげてゆく」ことを目指しています。

2020年度の主な成果と今後

2020年度は、IoTの普及を促進する「Things Partner® プラグラム」のさらなる拡充を実施し、参加企業数は41社となりました。IoTの導入検討から設計・保守運用までをワンストップでサポートし、参加企業との共創により新たなIoTユースケースを創出、「Smart World」の実現に貢献します。また、データの収集・蓄積・分析・還元をワンストップで提供する「Smart Data Platform」には、リモートから「Flexible InterConnect」にアクセスできる仕組みを整えるなど、Afterコロナを見据えた機能の拡充を図りました。

また、コロナ禍でリモートワークが急速に広がる中、OCNを快適にお使いいただくサービスを追加するなど、今後もネットワーク利用状況の変化に対応する支援施策を継続実施し、事業を通じた社会課題の解決に貢献できるよう革新的な技術を活用したサービス提供を推進していきます。

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

ICT社会の進化を実現するサービスの提供

企業理念の実践を通じた
「Smart World」の実現

NTTコミュニケーションズグループは、お客さまの事業創造や競争力の強化を導くデジタルトランスフォーメーション (DX) や、ICTを活用して社会課題を解決する「Smart World」の実現を目指しています。DXの実現に重要な要素の1つはデジタルデータの有効活用です。お客さまの自身のデータを最大限利活用いただくための「Smart Data Platform (SDPF) ※」の提供を通じて私たちはお客さまのDX推進を後押しし、社会の課題解決や持続的成長、そしてDXを通じた新たな価値の創造へとつなげていきます。

※ Smart Data Platform：セキュアな環境のもと、クラウドやオンプレミスといった企業に点在するさまざまなデータを1つのプラットフォームに融合・整理し、お客さまのデータ利活用ビジネスに必要なすべての機能をワンストップで提供するサービス

 「Smart Data Platform」の詳細は、こちらをご覧ください。
<https://www.ntt.com/business/sdpfi>

IoT活用による価値創出にむけた
デジタルトランスフォーメーションの推進

NTTコミュニケーションズは、デザイン思考にもとづくお客さまとのイノベーションやIoT活用による価値創出、ビジネス共創を積極的に推進しています。2020年度も継続的にSmart Data Platformの各サービスと合わせてお客さまに価値のあるIoTソリューションを提供するため、お客さま業務の問題に対するバリュー提案の実施やThings Partner®プログラムにおけるケイパビリティの拡大に取り組みました。

Things Partner®プログラムについてはコロナ禍においてオンラインでイベントや分野別IoTユースケースディスカッションを実施し、参加企業数を41社まで拡大(2021年3月時点)しました。Things Cloud®は「2020フロスト&サリバン アジア太平洋地域ベストプラクティスアワード」で「2020 Japan IoT Service Provider of the Year」、Vehicle Manager®は「第14回ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2020」で「IoT部門 審査委員会賞」を受賞するなど、対外的にも評価されました。

また、2021年度は新たに5G・IoTタスクフォースを発足し、IoT Connect Mobile®やローカル5Gなどのネットワークとの連携も深めています。IoT Connect Mobile® Type Sでは閉域接続機能をリリースし、モバイル網からFlexible InterConnect経由で

Things Cloud®などの各種クラウドへ閉域で接続できる機能を提供します。

Things Cloud®ではお客さまのビジネスを加速するため、高い処理性能でリアルタイム処理を実行できるストリーミング処理機能の提供も予定しており、IoTによるデータドリブンなDXの実現に向けた機能拡充も行っています。

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

社会への貢献

2020年度の活動実績

ネットワーク社会を支えるイノベーション

重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保

顧客のネットワークセキュリティの強靱化

顧客満足の継続的改善

サプライヤーとの協働

地域貢献・コミュニティ開発

地球環境への貢献

人材の尊重

経営統治の継続的強化

企業情報

社内システムへセキュアなアクセス可能なサービスの提供

リモートワークが普及したニューノーマルな社会環境においては、どこからでもオンプレミス^{※1}やパブリッククラウド^{※2}に点在する社内業務システム・SaaS^{※3}にセキュアにアクセスする環境が求められます。

NTTコミュニケーションズは2021年4月からこうしたリソースに従業員がどこからでも接続できるリモートアクセスサービス「Flexible Remote Access」の提供を開始しました。本サービスは、各種セキュリティ機能や、認証機能を提供することで、セキュアなアクセスを可能にするだけでなく、外部からの社内ネットワー

クへの侵入も防ぎます。

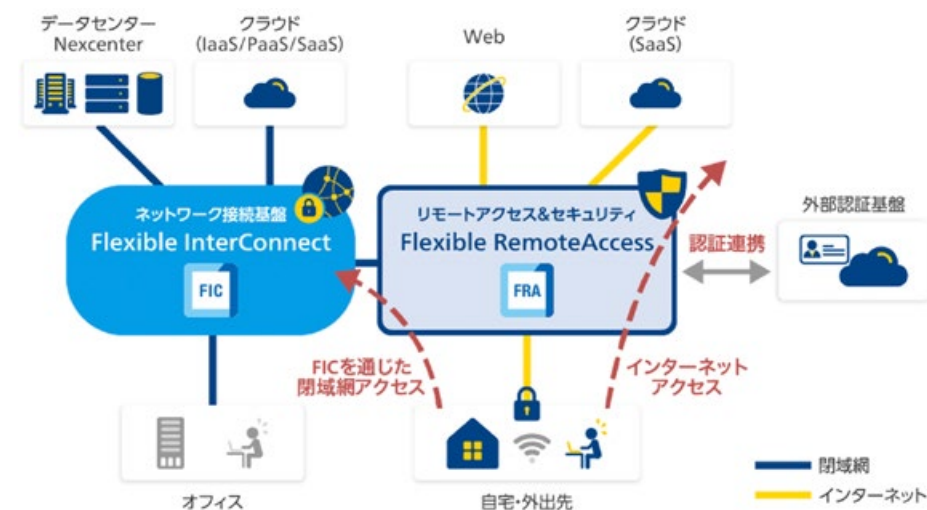
今後はモバイル端末からのアクセス機能追加など、お客様のニーズに合わせて「どこからでも」「必要なリソースへ」「安心・安全に」アクセスできるICT環境を実現します。

※1 オンプレミス：サーバーなどの情報システムの自社運用

※2 パブリッククラウド：不特定多数の企業もしくは個人に向けてクラウドコンピューティング環境を提供しているオープンな形態

※3 SaaS：「Software as a Service（サービスとしてのソフトウェア）」の略。クラウドで提供されるソフトウェアで、必要な機能を必要な分だけサービスとして利用できるようにしたソフトウェアや提供形態

◆ リモートアクセス&セキュリティ基盤



すべての人にICTの恩恵を

ICTが社会インフラとして重要性を増すにつれ、その恩恵を世界のすべての人々が居住地域や年齢、経済水準に制約されず享受できるようにする「デジタルデバイドの解消」が、人類全体の課題としてクローズアップされています。私たちは、グループ企業およびパートナー企業と連携しつつ、高品質な通信網をグローバルに展開する一方、利便性の高いサービスを適正な価格で提供する体制を構築し続け、デジタルデバイドの解消へと貢献し続けています。

NTTコミュニケーションズでは、年齢、性別、身体的な機能の違いに関係なく、すべてのお客さまにとって利用しやすい製品やサービスを実現する「ユニバーサルデザイン[※]」の普及に取り組んでいます。

2020年度は、独自の意味検索エンジンで質問の意図を読み取り、高い精度での回答を実現するAIチャットボット「COTOHA（コトハ）Chat & FAQ[®]」をユニバーサルデザイン対応にしました。

※ ユニバーサルデザイン：高齢者や子ども、障がいのある方、言語の壁がある訪日外国人の方なども利用することができる製品・サービス（機能拡充も含む）

「COTOHA（コトハ）Chat & FAQ[®]」の詳細は、
こちらをご覧ください。

<https://www.ntt.com/business/services/application/ai/cotoha-cf.html>

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動
項目

重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保

私たちのアプローチ

IoT社会の進化につれ、有事の情報通信ネットワーク停止・遮断による経済的・社会的損害も測り知れなくなりつつあります。多くの企業のグローバル化に伴うネットワーク網や重要データの管理などをゆだねられている私たちには、ネットワークを「いかなる時もつなぎ続ける」責任が強く求められています。

私たちは、高度情報化社会を支えるネットワーク技術と保守体制で世界全域の通信サービスを提供している企業グループとして、CSR重点領域「社会への貢献」の取り組みの柱に「重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保」を掲げ、災害や障害の発生時でも安心してネットワークをご利用いただける環境整備に日々努めています。具体的には、通信ルートの大容量化・高信頼化、通信機器の二重化・分散化、ネットワーク全域での24時間365日監視体制の整備と併せ、グループ全体で取り組みを推進しています。これらはSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」が重視する、質が高くサステナブルな生活環境へのアクセスの継続的な拡大・改善へと資するものであり、この観点を加味した施策の在り方を検討していきます。

基本的な考え方

重点活動項目「重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保」にもとづく活動は、内外の情勢を踏まえたCSR目標の検討と設定を、CSR・環境保護推進室およびそれぞれの活動を担当する担当各部門が連携しつつ行っています。

国内・海外ともに自然災害の頻発傾向が続く昨今、施策の確実な執行に向け、有事における的確な対応体制の整備・強化の重要性が高まっています。この観点に立ち、私たちは「災害対策の基本3方針」を重視し、その徹底をグループ全体で図っています。

NTTコミュニケーションズ 災害対策の基本3方針

1. ネットワークの信頼性向上

電気通信システムの一部の被災が他に重大な影響を及ぼさないよう信頼性の向上を図っています。

2. 重要通信の確保

災害時に重要通信をそ通させるための通信手段を確保しています。

3. 通信サービスの早期回復

災害を受けた電気通信設備、サービスを早期に復旧します。

 「災害対策の基本3方針」の詳細は、こちらをご覧ください
<http://www.ntt.com/about-us/cs/saitai.html>

2020年度の主な成果と今後

重点活動項目「重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保」にもとづくCSR活動は、「災害に強いネットワークづくり」「大規模災害への対策」など、情報インフラのレジリエント化に関する多面的な構成となっています。

2020年度は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会*の開催を次年度に控え、これまで行ってきた対策やカイゼンの実効性を確認するために、大規模イベント開催中のインシデント発生を模擬した演習を繰り返し実施しました。

また、引き続き新型コロナウイルス感染症が蔓延する中での大規模イベント開催にあたり、大会運営を支える対策本部をリモート環境下で確立するため、情報連携フローならびに環境の整備を行いました。

いずれも目標を「達成」または「ほぼ達成」することができました。2021年度も継続的に目標を定め活動を推進していきます。

※ NTTコミュニケーションズは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のゴールドパートナー(通信サービス)です。

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

災害に強いネットワークづくり

災害時におけるネットワークの信頼性確保

NTTコミュニケーションズは、災害対策の基本3方針にもとづき、重要通信を確保するとともに、通信サービスの早期復旧に努めています。

2020年7月、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」では、集中豪雨に伴う道路や橋梁の崩落によって熊本～鹿児島ならびに岐阜～富山間の複数の基幹中継ケーブルが被災しました。特に球磨川の氾濫により災害の長期化が予想された熊本エリアにおいては、被災エリアを大きく迂回する中継伝送路の新設を発生から10日で完了させ復旧しました。

また日ごろから、災害に対し迅速に対応できるように社員およびパートナー社員に対して、継続的に災害対応に関する意識高揚を図っています。具体的には、NTTコミュニケーションズのサービスの1つである「Biz安否／一斉通報サービス」を利用した社員安否の確認・報告訓練や、大規模災害などを想定した全社レベルでの実践的な対応演習を実施しています。

 「災害に対する取り組み」については、こちらをご覧ください
<https://www.ntt.com/about-us/cs/saitai.html>

企業の事業継続を支えるサービスの提供

NTTコミュニケーションズは、大地震、パンデミックなどの危機に対応したさまざまなサービスを提供し、お客さまの事業継続を支援しています。代表的なものとして緊急地震速報は、実際に揺れを感じる前に震度や到達時刻などの地震情報を配信するサービスです。初期被害の予防や安全確保が可能になり、地震後の事業の早期復旧が見込めるため、事業継続計画(BCP)を策定するうえで有効なサービスといえます。また、安否確認・一斉通報サービスは、新型インフルエンザや地震といった自然災害の発生時などに社員の安否状況を確認・集計するサービスです。普段から連絡網としても利用可能なため、学校の連絡網や高齢者の安否確認、派遣先社員への一斉連絡にも効果を発揮します。

さらに海外拠点にもサービスを拡大し、通信キャリアとして高い技術力と実績を活かした企業向けのクラウドサービス「SDPF クラウド／サーバー(旧Enterprise Cloud)」は、信頼性が高く、災害にも強いデータセンターに設置し、日本と海外拠点間を高品質・大容量ネットワークで接続しているため、遠隔地にあるバックアップを迅速に稼働させるなどBCP対策としても最適なサービスです。

最新鋭のケーブル敷設船「きずな」

災害時における通信設備の復旧に船舶の有効性が高く

評価されており、船舶のさまざまな活用方法がNTTコミュニケーションズだけでなく、NTTグループとしても検討されています。

海底ケーブル敷設船「きずな」は、災害復旧資機材、20フィート型コンテナ(6個)、高所作業車、移動電源車など、NTTグループにおける災害復旧用物資・車両の輸送を可能にしています。2018年の北海道胆振東部地震および、台風24号の災害復旧支援では「きずな」に復旧用資機材・車両を積み込み現地付近の港まで回航し、通信インフラの迅速な復旧を支えました。

定点保持機能を活用し、非常用携帯基地局を船上に設置し、災害により非通話エリアとなった地域の緊急復旧が可能です。船橋上部には通信障害が生じないように工夫した衛星通信用のパラボラアンテナを複数設置できるスペースを設けており、災害時の通信設備の増設に対応しています。また、船という独立した生活スペースを活用して、災害地での復旧作業にあたる作業員への宿泊設備、食事の提供などの支援設備を備えつつ、船側から陸上側へ電力、水を供給できるよう配電盤、給水口を設けていることも特長です。

◆「きずな」の船上設備および災害復旧支援の様子



CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動
項目

顧客のネットワークセキュリティの強靱化

私たちのアプローチ

ICT化の浸透で、より多くの企業、個人の情報がネットワーク上に蓄積されるようになった現在、私たちはICT事業者として、お客さまからお預かりした情報の機密性を担保し、確実に保持・管理する責任があります。これはSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」が重んじる、先進的かつ安心・安全な、サステナブルな生活環境の実現に、大きく関わる経営課題といえます。

また、SDGsの目標9で示された「産業と技術革新の基盤をつくろう」との社会的要請に応えるため、顧客のネットワークセキュリティの強靱化に向けた取り組みを強化し続けています。グループ全体で整備・共有したセキュリティ規定群を遵守し、顧客から委託されたICTシステム・ネットワークの常時監視・運用体制をさらに強靱化し、未知の脅威に対する脆弱性対応機能の強化なども進めています。これらの課題を重点活動項目として、さらなる取り組みの体制強化と推進を図っています。

基本的な考え方

重点活動項目「顧客のネットワークセキュリティの強靱化」は、現在、内外の情勢を踏まえ、「24時間365日のネットワーク監視」「脆弱性対応機能の強化」「迅速・確実なセキュリティ脅威対応」を主要な施策に位置づけ、取り組みを推進しています。いずれの課題も、時事的な問題や社会の関心事も踏まえつつ、CSR・環境保護推進室およびそれぞれの活動を実施する担当各部門が連携しつつ、CSR目標の検討と設定を行っています。

これらの多面的な活動は、いずれも確実で強固なセキュリティ体制に立脚して遂行される必要があります。私たちは「NTTコミュニケーションズ セキュリティ宣言」を同重点活動項目に共通する指針に位置づけ、その徹底を図っています。

◆ NTTコミュニケーションズ セキュリティ宣言

お客さまの大切な情報を守り、安心してご利用いただけるサービスを提供するとともに、お客さまのセキュリティ向上に貢献することこそ、私たちのもっとも大切なミッションです。私たちはセキュリティをサービス提供上の最重点事項と位置づけ、お客さまにとって最良のセキュリティをお客さまと共に実現することをお約束します。そのために技術開発、サービス開発から構築及び運用に至る全てのバリューチェーンにおいて、セキュリティの確保に最大限努力いたします。また、私たち一人ひとりがICTプロフェッショナルとして、セキュリティへの対応能力を高めてまいります。

2020年度の主な成果と今後

重点活動項目「顧客のネットワークセキュリティの強靱化」にもとづくCSR活動は、「24時間365日のネットワーク監視」「脆弱性対応機能の強化」「迅速・確実なセキュリティ脅威対応」など、社会課題であるセキュリティ脅威やあらゆる災害からお客さまのネットワークを守ることを目的としています。

2020年度はコロナ禍によるリモートワークへの急速なシフトなど、ゼロトラスト^{※1}時代への転換が加速した年であり、当社はお客さまのICT環境のクラウド化に対応したセキュリティサービスのラインアップを強化しました。

具体的には、お客さまのクラウド上のメールサービスのセキュリティを強化する「クラウドGWセキュリティメール」のほか、お客さまがクラウド上のサービスであるSaaS^{※2}を利用するICT環境への移行に対応したセキュリティサービスの機能の強化に取り組むことで、お客さまの安全に対する期待に応えるサービスの提供に努めました。

私たちは、2021年度も先進的で強固な情報・サイバーセキュリティサービスの推進を通じて、継続的にセキュリティの強靱化に取り組んでいきます。

※1 ゼロトラスト：「信頼(Trust)を何に対しても与えない(Zero)」という前提に立ったセキュリティ対策の考え方

※2 SaaS：「Software as a Service(サービスとしてのソフトウェア)」の略。クラウドで提供されるソフトウェア

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

お客様のICTシステムを守る
24時間365日の取り組み

企業システム・ネットワーク監視・
運用サービスの安定的な提供

札幌市にICTシステム・ネットワークの常時監視と安定運用を行うオペレーションセンターとして「マネジメントソリューションセンター(札幌)」を2008年6月から運用しています。同センターでは、24時間365日でお客さまのICTシステムの監視・運用のほか、お問い合わせへの対応、故障修理、BCP管理支援などを担います。

近年、企業にとって、ICTシステムはもとより、その安定稼働の要としてのオペレーションセンターは事業継続上必要不可欠なものとなっており、お客さまのICTシステムを守るインフラとして、オペレーションセンターへの高い信頼性が求められています。札幌市は地域特性として、地震、台風、雷などの大規模な自然災害の発生が比較的少なく、首都圏からの距離もあることから、オペレーションセンター自体が、広域災害やパンデミックなどの影響を受けにくく、首都圏オペレーションセンターの機能代替も可能となっています。

同センターでは、サービス品質やお客さまへの付加価値を高めて、お客さま満足度(CS)を向上させる一方、効率化・生産性を促進するために、ITIL®※をベースとしたITサービスマネジメントシステム(ITSMS)手法の導

入・定着に取り組み、その結果ITSMSの国際規格であるISO20000の認証を、2009年12月に取得しました。

お客さまシステムもクラウドをはじめとしたサービスを活用して構成されてきており、オペレーションの技術・内容とも大きく変化してきています。同センターもその変化に追従し、今後も引き続き、高品質かつ低コストで効果的な継続的オペレーションサービスの提供に努め、一層のCS向上を図ることができるよう、これからも取り組んでいきます。

※ ITIL®：英国政府が策定した、コンピューターシステムの運用・管理業務に関する体系的なガイドラインであり、数冊の書籍の形でまとめられています。ITIL®(IT Infrastructure Library)は、英国政府OGC(the Office of Government Commerce)の登録商標です。

迅速・確実な脅威対応

企業ネットワークのセキュリティ監視

DXは企業にとってビジネスチャンスであると同時に、ビジネス拡大とともにインターネットと同化するICT環境によりサイバーリスクが増大するゼロトラスト時代の到来も意味します。そのような中、想定内または想定外のリスク、外部侵害や内部不正に起因するリスクをマネジメントし、事業継続性を確保することが主要経営課題の1つとなっています。私たちのサイバー脅威への取り組みは約20年にわたり、「セキュリティオペレーションセンター(SOC)」による企業向けセキュリティ運用サービスの提供を契機にサービスを拡充、総合リスクマネジメ

ントサービス「WideAngle」としてグローバルに展開して10年になります。その間、セキュリティのあらゆる分野の専門家が、巧妙化するサイバー攻撃からお客さまのICT環境を守ってきました。

2020年度はコロナ禍によるリモートワークへの急速なシフトなど、ゼロトラスト時代への転換加速を受け、お客さまのICT環境のクラウド化に対応すべく、クラウド上のメールサービスのセキュリティを強化する「クラウドGWセキュリティメール」の提供、クラウド化やテレワークなどによるSaaS利用拡大におけるセキュリティ強化として「クラウド診断ソリューション(CASB)」や「クラウドGWセキュリティ」の機能の拡大など、クラウドを軸としたセキュリティソリューションの提供とサービス強化に取り組みました。これからも安心してデータを利活用し、新たな価値を創出するためのソリューション提供を行うことで、お客さまのDXに貢献していきます。

社会問題化するマルウェアへの対策について

2016年2月に国内インターネットサービスプロバイダ(ISP)として初めて不正アクセス先(C&Cサーバ※)への通信をブロックする「マルウェア不正通信ブロックサービス」を無料提供して以降、不正アクセス先のリストは常に最新化し、安心・安全なネットワークを提供しています。

※ C&Cサーバ(Command and Control server)：悪意のある第三者が管理し、感染端末などに遠隔指令を出すサーバ

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
[顧客満足の継続的改善](#)
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動
項目

顧客満足の継続的改善

私たちのアプローチ

私たちの事業は、通信ネットワークやデータセンターサービスなどのITインフラから、各種アプリケーションサービスを含むクラウドの提供、さらにはお客様の課題解決のためのソリューションなど多岐にわたります。

また、データの収集・蓄積・分析・利活用を通じて、社会・産業へ新たな付加価値を提供することにも取り組んでいます。

多様なお客さまの声を丁寧に聞き、それを柔軟に活かす仕組みを整備・強化していくことは、CSの継続的な向上にも直結する重要な責務であり、また私たちがお客さまと「共創」を通じてイノベーションを起こしサステナブルな社会を創るうえで道しるべともなる取り組みです。

これらの取り組みは、SDGsが目標8「働きがいも、経済成長も」で指向している、世界経済の高付加価値化や生産性の改善、ひいては経済成長の持続へと寄与するものであると私たちは考えています。この考えにもとづき、これからも幅広い皆さまからのさまざまな意見を取り入れ、私たちの事業に反映する仕組みを強化・刷新し続けます。

基本的な考え方

私たちはお客さまのニーズやご要望・ご期待に的確にお応えするとともに、すべての業務を継続的に評価・改善することで、サービス品質とお客さま満足度の向上を目指しています。

経営企画部と営業・サービス・オペレーション各組織が連携し、全社的な満足度調査を定期的実施しています。調査結果の分析、お客さまニーズやサービスの改善点の把握、課題に対する打ち手の実行を徹底しお客さまにご満足いただけるサービスのご提供、信頼されるパートナーであるために顧客満足度の継続的改善に日々取り組んでいます。

2020年度の主な成果と今後

私たちは「継続的なCS調査」を主な施策として多面的な活動を推進しています。2020年度に実施した「お客さまの声(VOC: Voice of Customer)調査」では従来の調査方法を見直し、お客さまのニーズ・NTTコミュニケーションズへのご要望・ご期待を中心にうかがう「リレーショナル調査」においては、調査対象となるCXO※1層やLoB※2部門担当者の数を増やし、よりお客さまの事業戦略・事業課題を把握できるよう努めました。

また、調査結果に対しては、お客さま視点で優先すべき課題を抽出し、それらをスピーディに改善するプロセスへ見直しを行いました。

2021年度においては、ニューノーマル時代におけるお客さまニーズと課題や、脱炭素・サーキュラーエコノミーなどの社会課題解決に取り組むお客さまがICT事業者に求めるものを把握する調査を実施し、営業活動やサービス開発の改善に取り組むと考えています。

※1 CXO: Chief x Officer。企業活動における業務や機能の責任者の総称
※2 LoB: Line of Business。企業業績に直結するライン部門の総称

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

継続的なCS調査

法人のお客さまの声を活かす取り組み

私たちは、世界中のお客さまに私たちのサービスを選んでいただけるよう、日ごろお客さまと接する営業担当者だけでなく、すべての社員が一丸となってお客さまに向き合うことを第一の姿勢として、革新的なサービスの提供や、日々の改善活動を通じたお客さま満足の向上に取り組んでいます。私たちが毎年実施している「VOC調査」もその取り組みの一環であり、いただいたさまざまな「お客さまの声」を真摯に受け止め、ひたむきに改善活動を積み重ねているところです。

2020年度のVOC調査では、NTT Comに対する総合満足度やサービス・営業活動に対する満足度に加え、ニューノーマル時代におけるDXの取り組み傾向／課題の把握についても調査を実施しました。また、調査対象者についてはCXO層（数十名増）、LoB部門担当者（数百名増）を大幅に増加させ、中でもインタビュー調査ではCXO層に深掘調査をすることで、お客さまの事業戦略や動向を的確に把握することができました。

今後も「お客さまの声」を真摯に受け止め、永続的な改善活動を行うことにより、お客さまにご満足いただけるよう取り組んでいきます。

個人のお客さまの声を活かす取り組み

個人のお客さまに向けた
「カスタマーズフロント」の運営

プロバイダーサービスであるOCNでは、個人のOCN会員の方からのご質問、ご相談を受け付ける窓口「カスタマーズフロント」を開設し、各種サポート業務を行っています。

お客さまにインターネットサービスを安心・快適に利用いただくためには、きめ細かいカスタマーサポート体制の構築が大切だと私たちは考えています。この考えにもとづき、私たちはコンタクトセンターおよび在宅スタッフを配置し、日々、お問い合わせに対応しています。オペレーターの教育にも力を注いでおり、Web研修や実務研修を義務付けるなど、高品質なサポート体制の実現に向けた取り組みを継続しています。

「OCNお客さまの声」を元にした改善

OCNサービスでは、サービスのさらなる品質向上に向け、「OCNお客さまの声」として専用Webサイトを設置してサービス改善に取り組んでいます。

お客さまからOCNサービスへの多くのご意見・ご要望をいただいております。日々サービスの品質改善・向上につなげています。

今後も「OCNお客さまの声」は、お客さまの声をOCNのサービス改善につなげることはもちろんのこと、お客さまに快適なインターネットライフをご提案できるように、サービスの充実・改善に寄与していきます。



 「OCNお客さまの声」へのご投稿は、こちらをご覧ください

<https://support.ntt.com/common/inquiry/detail/pid22000004xs>

2020年度、「OCNお客さまの声」に寄せられたご意見をもとに、以下のサービスを改善・提供しました。

 お客さまの声 **「OCN モバイル ONE」の料金をもっと安くしてほしい。**

改善事例
品質はそのままに価格を見直し、さらにお得に利用できるようにしました。
<https://www.ntt.com/personal/services/mobile/one.html>

 お客さまの声 **ゲームやテレワーク、動画視聴を快適にしたい。**

改善事例
「OCN 光」にアドオンできるオプションサービスとして、ラグが少なく遅延に強い「IPoEアドバンス」を開始しました。
<https://www.ntt.com/personal/services/internet/hikari/ipoadvance.html>

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
[サプライヤーとの協働](#)
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動
項目

サプライヤーとの協働

私たちのアプローチ

近年、企業には、サプライチェーン全体で捉えたCSR活動が求められており、グループ横断でのCSR活動はもちろん、サプライヤーとの誠実でサステナブルな関係づくりが重要です。これらの取り組みは、SDGsにおける目標8「働きがいも、経済成長も」を実現するうえで大前提となる「公正な取引慣行、ディーセントな労働慣行」をグローバルに実現するうえで不可欠なものといえます。

この観点に立ち、私たちは、グローバルなICT企業グループの責任として「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」を定め、サプライヤーとの相互理解と信頼関係の発展を図りつつ、環境面にとどまらず人道・社会面でも配慮を徹底した「CSR調達」の考えにもとづく調達体制の構築を推進しています。

 「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」に関する詳細は、こちらをご覧ください
https://www.ntt.com/content/dam/nttcom/hq/jp/about-us/procurement/pdf/csr_guidelines.pdf

基本的な考え方

事業を通じた価値創造を重視する私たちは、品質の高い役務サービスや製品などを、経済的かつタイムリーに調達する必要があります。このため私たちは、調達基本方針を実現するための指針として「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」を制定、これをもとに、世界市場に広く目を向けて、グループ経営の競争力向上に資する調達活動を行っています。推進体制として、プロキュアメント&ビルディング部が全社の調達の統括を行い、各組織との連携を図りながら、グループ一体でCSR調達を推進しています。

◆ サプライチェーンCSR推進ガイドライン(要旨)

調達基本方針

1. 広く国内外のサプライヤの皆様に対し、公正に競争機会を提供するとともに、相互理解と信頼関係の構築に努めます。
2. 品質・価格・納期・安定供給を総合的に判断し、ビジネスニーズに即した競争力ある製品・サービスを、経済合理性に基づき調達します。
3. 法令や社会規範を遵守するとともに、社会への貢献のため環境・人権等に配慮した調達を実施します。

人権・労働	・強制労働／児童労働の禁止	・団結権／団体交渉権の尊重
安全衛生	・職場の安全	・労働災害／労働疾病対策
環境	・有害な化学物質の管理	・資源／エネルギーの有効活用
公正取引・倫理	・汚職／贈賄の禁止	・知的財産の尊重
品質・安全性	・製品の安全性の確保	・品質マネジメントシステムの構築
情報セキュリティ	・個人情報の漏えい防止	・情報システムの防御策
事業継続	・事業継続マネジメントシステム	・供給停止リスクへの備え

2020年度の主な成果と今後

現在、私たちは、CSR調達の理念を実現するため、サプライヤー各社との協力のもと実施する製品アセスメントを通じ環境面でのマイナスインパクトの少ない製品調達の徹底を目指すとともに、紛争鉱物問題に代表されるような社会的・人道的な問題行為に加担しないサプライチェーンのグローバルな浸透を目指しています。この考えにもとづき、2016年度から引き続きCSR調達推進に関する継続的なサプライヤー調査を実施し、リスクの把握に努めました。また私たちをサプライヤーとして検討される企業の皆さまへの説明性向上にも注力しています。

さらに、世界的なサステナビリティ・サプライチェーン評価機関であるEcoVadis*への情報提供を継続して実施しています。

2021年度もサプライヤーへの調査を継続すると同時に、サプライヤーとの意見交換の推進ならびに情報開示のさらなる向上を図ります。

※ EcoVadis： サプライチェーンにおけるサステナビリティ(持続可能性)の評価機関。企業によるサステナビリティに関連する方針、施策、実績を調査するためのプラットフォームを提供し、「環境」「労働環境」「事業活動」「サプライチェーン」の4つの観点から、世界110カ国・150業種におよぶサプライヤー企業の調査・評価を行っている。

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
[サプライヤーとの協働](#)
地域貢献・コミュニティ開発

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

CSR・グリーン調達への浸透

CSR調達の推進

私たちは人権や環境への配慮、製品やサービスの品質・安全性の確保など、社会の要請に配慮した調達について、「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」に定めています。新規のサプライヤーの選定・契約に際しては与信審査（人権・労働取り組みなどの確認含む）に加え、当社が設定するCSR準拠の項目を設定しています。各発注契約書にガイドライン遵守条項を盛り込み、利用を義務付けています。最終的に当社が求める基準を満たさず、リスクがあると判断した場合は取引しない方針としています。

CSR調達の推進にあたり、NTTグループの主要サプライヤー135社の中から親会社である日本電信電話株式会社が指定したサプライヤーに対してガイドラインの運用状況を確認するアンケート調査を実施しています。集計結果を分析し、高リスクの懸念がある場合には改善対応などの検討を行います。2020年度は19社を対象にアンケートを実施し、全社から回答を得ました。その結果、高リスクとなる事象はありませんでした。今後もサプライヤーとともに、CSR調達活動を推進していきます。

 「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」に関する詳細は、
こちらをご覧ください
https://www.ntt.com/content/dam/nttcom/hq/jp/about-us/procurement/pdf/csr_guidelines.pdf

 「グリーン調達」については、レポート内「地球環境への貢献」パートをご覧ください
P.049

調達分野の人材育成

グループ全体で健全経営を継続していくため、当社はCSR基本方針にもとづき、サプライヤーを含めたCSRの向上・徹底を図っています。購買・調達分野における専門的な知識を身につけるため、公益社団法人 全日本能率連盟が認定する「購買・調達プロフェッショナルスキル認定資格（＝CPP）」の取得を推進しています。2021年3月末時点の延べ取得者数（異動者を含む。他組織での取得は除く）は、109名（A級：40名、B級：69名）となりました。今後も各分野における人材を育成し、サステナブルで責任ある調達に取り組んでいきます。

英国現代奴隷法声明文

NTTコミュニケーションズグループは英国現代奴隷法にもとづき、「奴隷労働および人身取引に関する声明」を開示しています。本声明では奴隷労働および人身取引の防止に向け、自社およびサプライチェーンにおける取り組みを報告しています。英国に拠点を持つ当社グループ国内外の幅広いサプライヤーと誠実でサステナブルな関係をつくる中で、高品質なサービスや製品を調達し、奴隷労働や人身取引の防止に努めています。今後はサプライヤーとの協働体制を一層強化するほか、人権インパクトアセスメントを実施し、人権侵害に関するリスクと現状の把握に注力します。

 「奴隷労働および人身取引に関する声明」の詳細は、
こちらをご覧ください
<https://www.ntt.com/about-us/csr/modernslavery.html>

 「バリューチェーン上の人権への取り組み」については、レポート内「経営統治の継続的強化」パートをご覧ください
P.097

紛争鉱物への対応

NTTコミュニケーションズグループは「NTTグループの紛争鉱物への対応」に則った調達活動を行っています。主要なサプライヤーの紛争鉱物への対応については、サプライチェーンCSR推進ガイドラインの運用状況を確認するアンケート調査の中で確認しています。

EcoVadis サプライヤー調査への取り組み

近年、サプライチェーンを含めたCSR活動に対する社会の期待が高まっており、企業にとってサプライヤーのCSR活動に関する状況把握または取引先への情報開示の重要性が増しています。私たちは2016年度よりEcoVadisに情報を登録し、取引先および取引を検討している企業への情報開示を推進し、2021年にはSilverメダルの評価を得ました。特に環境面での取り組み姿勢については、複数の関連問題に関して定量的な目標を設けていることなどが高く評価されました。今後も「環境」「労働・人権」「倫理」「持続可能な調達」について継続的にCSRパフォーマンスの改善に取り組んでいきます。

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループのサステナビリティ

社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

地球環境への貢献

人材の尊重

経営統治の継続的強化

企業情報

重点活動
項目

地域貢献・コミュニティ開発

私たちのアプローチ

NTTコミュニケーションズは、さまざまな分野で社会貢献活動を実践しています。国際協力、環境保全、保健・医療・福祉、地域振興など、多彩な分野での活動を通し、豊かな社会の実現に貢献していく考えです。また、東日本大震災の後、被災地において復興への取り組みが継続的に進む現在、被災地の絆を再生し、かつ生活再建への一助となるべく、支援活動を継続しています。

近年、社会貢献活動には、地域や世代などで括られる多彩な共同体（コミュニティ開発）の育成を支援する役割が期待されています。私たちの活動も、コミュニティ開発を意識しつつ、対象の裾野を広げていきます。

◆ 活動原則

持続性	「細く、長く」を念頭に置き、継続のできる活動を行います。
効率性	無理なく続けていくために、コストパフォーマンスが高い活動を心がけます。
適正評価	寄付をする場合、真に社会に役立つかどうかを適正に判断します。
世界観	国内だけでなくとどまらず、国際社会にも貢献します。
スキル	情報流通市場で培ったサービスや社員の能力を社会のために役立てます。

地域社会のために

NTTコミュニケーションズグループは、「自然環境保護」「社会福祉」「教育・文化振興」「地域振興・交流」「国際交流」「スポーツ振興」を社会貢献活動の6つの柱に設定して活動を推進しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止・縮小した活動もあり、計56件の社会貢献活動に延べ990名の社員が参加しました。

一方、クラウド型教育プラットフォーム「まなびポケット」上で全国の自治体や学校から提供いただいた授業動画やプリント教材を教職員が活用し、児童・生徒が自宅などから無償で学習できる「One School」などの新たな取り組みも実施した結果、社会貢献活動に関する総支出額の実績は11億4,614万5,500円でした。

◆ 社会貢献活動実績

	件数(件)	参加人数(名)	活動支出額(円)
自然環境保護	17	577	2,191,600
社会福祉	24	249	1,593,800
教育・文化振興	11	142	1,141,356,800
地域振興・交流	4	22	1,003,300
合計	56	990	1,146,145,500

各種清掃活動

NTTコミュニケーションズでは、2008年から、千代田区一斉清掃に参加しています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりましたが、活動は今後も継続していきます。

また、NTTコミュニケーションズラグビー部「シャイニングアークス」はチームの拠点である千葉県浦安市を中心に、選手が主体となって清掃活動を行ってきました。2020年度からはNPO法人海さくらと公益財団法人日本財団が共催で海の環境問題に取り組む「LTO (LEADS TO THE OCEAN) 海につづくプロジェクト」に参画し、さまざまな活動を行っています。

2020年度は計4回の活動を浦安市の皆さまと実施しました。今後も引き続き、浦安市の皆さまと一緒にこの活動を広げていきます。

国内各地における在宅就業機会の提供

NTTコム チェオでは、インターネット接続サービス「OCN」会員向けのテクニカルサポートをはじめ、コンタクトセンター（電話、メール、チャット、PCリモート操作など）、訪問サポート（PC・ルーターなどICT機器の設定、操作説明など）、企業のICT機器運用管理など、テクニカルサポートを核とした事業を展開しており、日本各地在住の方が在宅で働ける機会を積極的に提供しています。

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

 社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
[地域貢献・コミュニティ開発](#)

 地球環境への貢献

 人材の尊重

 経営統治の継続的強化

企業情報

コンタクトセンターと訪問サポートでは北海道から沖縄まで全国の在宅スタッフが活躍しており、この一環として女性の活躍・地域の活性化・新たな就業機会の提供にも取り組んでいます。このように平常時より全国の在宅スタッフが遠隔で業務運営を行えるプラットフォームを構築・運用していたため、コロナ禍においても業務効率やサービス品質を維持したまま事業を継続できました。

また、2017年から政府が東京都および関係団体と連携した働き方改革運動として展開するテレワークの実施・促進の取り組みである「テレワーク・デイズ」に参画しており、2021年度はテレワークのノウハウ・ソリューションを提供する「応援団体」としても取り組みを行いました。

こうした長年にわたる実績と、女性活躍、地方創生、就業支援などへの寄与は国内外で評価され、2019年にはコンタクトセンターの国際コンテスト「コンタクトセンター・ワールドアワード2019世界大会」の「ホーム／リモートエージェント部門」にて金賞など、数々の賞を受賞しています。

グループ各社での社会貢献活動

私たちは、かねてより、グループ各社の自主的な社会貢献活動を推奨しています。この結果、各社それぞれに里山保全などの環境保全活動や災害対策用備蓄品（食糧）の寄付など、積極的な活動を各社継続しています。主なものは以下ようになります。地道ながら地域に役立つ意義ある取り組みを、企業市民の一員として引き続き推進します。また、そうした取り組みとともに、海外でもさまざまな事情で学校に通えないフィリピンの子どもたちに現地教育局およびNPO法人と連

携してICTの力で学びの機会を提供する取り組みを進めています。2020年度はコロナ禍で学校が閉鎖となる中、オンライン授業の実施に必要な端末を提供すべく、社内で使用しなくなった端末（296台）の現地への提供・再利用（Reuse）に取り組みました。これからもSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」に沿って、ICTの力で現地のまなびをとめない、そして授業を受ける機会の創出に向けた取り組みを進めていきます。

◆ 2020年度グループ各社での社会貢献活動の例

会社名	施策名
NTTコム ソリューションズ(株)	千葉県白井市平塚地区における「しろい里山保全活動」はコロナ禍により中止するも、活動に向けた準備費用を負担
NTTコム エンジニアリング(株)	古本回収(国際NGOルーム・トゥ・リードに対する社員や会社の蔵書売却による買い取り金額分の寄付)
NTTコム ソリューションズ(株)	フードバンクに対する義援物資としての災害対策用備蓄品寄付を通じた飢餓に苦しむ海外の人々の支援
NTTコム マーケティング(株)	
NTTビズリンク(株)	コロナ禍で卒業式に参加できなかった父兄、親戚、在校生向けライブ配信を実施
NTT コミュニケーションズ グループ	まなびをとめない施策
	「棚田みらい応援団」の活動に参加し、田植えを実施
	スポーツを通じて長期療養を必要とするこどもたちの自立支援をし、最高のこども時代「青春」の実現に取り組むプロジェクト

CONTENTS

トップコミットメント

私たちが目指す社会

私たちの事業を通じた社会課題の解決

NTTコミュニケーションズグループの
サステナビリティ

社会への貢献

2020年度の活動実績
ネットワーク社会を支えるイノベーション
重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保
顧客のネットワークセキュリティの強靱化
顧客満足の継続的改善
サプライヤーとの協働
地域貢献・コミュニティ開発

地球環境への貢献

人材の尊重

経営統治の継続的強化

企業情報

シンボルチームによる活動

青少年の育成

NTTコミュニケーションズラグビー部「シャイニングアークス東京ベイ浦安」は、スポーツを通じて青少年の健全な育成と地域との交流に積極的に取り組んでいます。2018年4月から拠点を千葉県浦安市へ移し、「相互連携・支援協力に関する協定書」の締結をもとに、小学校でのラグビー教室や市民の健康促進を目指した取り組みなど、地域に根ざした活動を展開しています。

その一環として未来を構想し、青少年の育成ならびに新たなスポーツの在り方を提供すべく、“ShiningArcs Youth Development Plan”を策定しました。本施策では小中学生を対象として、ICTを活用した「パフォーマンスの見える化」、競技の専門性だけでなく「多様な能力」を開発するプログラムの提供、女子アスリートの活躍支援、ラグビー界の課題である中学生の競技環境の提供と整備などに取り組んでいます。また、現在、小学生のラグビー大会などでは順位付けをする大会が少ないことなどから、競技力レベル向上を目指し、「シャイニングアークスカップ」を開催しています。

今後も次世代を担う青少年の健全な育成だけでなく、スポーツ文化としてのラグビーの啓発にも貢献していきます。

◆ 第5回シャイニングアークスカップ(2019年)



LEAD TO THE OCEAN への参画

NTTコミュニケーションズは日本ラグビー界初の試みとして、「NPO法人 海さくら」と「日本財団」が2015年から共催で取り組んでいる「LTO (LEADS TO THE OCEAN 海に続くプロジェクト)」に共感し、スポーツの力を通じて海洋環境の改善に寄与したいという思いから、本プロジェクトに参画しています。

NTTコミュニケーションズラグビー部「シャイニングアークス東京ベイ浦安」の拠点である浦安市は古くからノリやアサリといった豊富な海の資源に恵まれ、海と共に歴史を歩んできた地域です。この恵まれた海の資源を守り未来につなげていくため、ラグビーの「One For ALL ALL for One」の精神で、今後もチーム・地域一体となって街・川からゴミを減らし、未来に向けて大切な海を守るよう取り組んでいきます。

2021年度は「deleteC」や未就学児を対象にトライ数×玩具をプレゼントとする「1TRY×1TOY」の活動

を継続しつつ、分身ロボット「OriHime」を活用した地域協創プロジェクトや障がい児童支援など、新たなサステナビリティ活動にも取り組んでいます。

